

備前市 事務事業 評価表

事業の概要		コード	01-01-08-01
事務事業名	水源管理事業		根拠法令・要綱等 水道法
事業開始年度	平成17年度(昭和38年)		
大項目 基本目標	安全で快適に暮らせる町づくり	問合せ先	担当課(室) 水道課
中項目 基本施策	生活しやすい町づくり	職・氏名	施設係長 吉栖 満
小項目 施策	水資源開発と水利用	電話	0869-66-9793

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	備前市の上水道使用者
目的(何のために)	常に安定した安全な水を市民に供給できるよう、水資源の確保と水源施設の管理を行う。
行政活動(どのような方法で)	浄水場施設維持管理(動力費及び修繕費) 取水権に対する負担金
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	コストの削減

事業の実績				
実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
取水量	m ³	7,011,700	6,556,300	6,451,500
苫田ダム管理費等負担金	回	2	2	2
坂根堰管理負担金	回	5	5	5
八塔寺川ダム管理費等負担金	回	1	1	1
水源施設維持修繕	回	10	11	4
活動実績				
事業費	千円			
直接事業費		70,497	76,098	74,657
人件費		12,451	9,465	18,071
事業費計		82,948	85,563	92,728
財源	千円			
国県支出金				960
受益者負担金		82,948	85,563	91,768
一般財源		0	0	0
必要人員	人	1.70	1.22	2.03
結果指標				
結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
1 m ³ の水に対する動力費	説明			
結果指標量	m ³	7,011,700	6,556,300	6,451,500
対前年比	%	-	93.5%	98.4%
活動コスト	円	49,264,000	49,214,000	47,146,000
単位当たりコスト	円	7.03	7.50	7.30
結果指標	説明			
水源施設維持修繕				
結果指標量	回	10	11	4
対前年比	%	-	110.0%	36.4%
活動コスト	円	2,817,045	6,154,050	4,239,900
単位当たりコスト	円	281,705	559,459	1,059,975

事業の成果			
成果指標名	1 m ³ の水に対する動力費	式又は説明	ポンプを効率よく運転し動力費を削減する。
成果指標量	17年度 7.03	18年度 7.50	19年度 7.30
対前年比		106.69%	97.33%
到達目標値	7.10	到達目標年度	22年度

事業の目的、対象、内容を考えて目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A~E>	A
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	課題認識	
行政活動	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	本事業は水道法に基づき水源管理をしており、水資源の確保及び水道施設を常にきれいに保つよう浄水場の管理を行っており目的、対象内容は妥当である。	
	<input type="checkbox"/> 事業の意図する成果 <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	効率性評価<A~E>	B
	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		課題認識
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	ポンプの効率の良い運転に努めたが、修繕費等かさみコスト削減ができていない。なお、人件費・人員の増は、平成19年度から実測によるものである。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	有効性評価<A~E>	B
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい <input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		課題認識
手続	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	機器の老朽化により修繕費が増加した。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
職場	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	市民参画度	
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A~E>	B
	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識	
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	機器の老朽化により修繕費が増加した。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明	水源の確保は重要であり、浄水場も常にきれいに維持し、効率の良いポンプ運転をする必要がある。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 6,400,000 m ³	結果指標量	7.10 円

総合評価		評価区分<A~E>	B
水質汚染が進む中、水質基準に適合した安全な水道水を使用者に供給するため、水源の確保は重要である。また、浄水場も常にきれいに維持し、ポンプの効率の良い運転をするよう努力する。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	施設の統合	平成22年度～	水源の統合によりランニングコストの削減が図られる。
有効性	水源施設の老朽化の更新	平成22年度～	安全、安心な水の供給源となる水源の安全性が図られる。